

## 茶道関連人名のデジタル典拠化について：2018年1月現在

● 福 田 博 同

抄録：【茶道】関連分野（茶人、茶書、茶道具、茶室等）の人名について、【国立国会図書館デジタルコレクション】<sup>1)</sup>（略称「国会デジコレ」）を主としたデジタル典拠の発見方法を示し、デジタル典拠を系統化し、解説する。〔流派〕や【事項】の系統を論ずることで【日本美術シソーラスデータベース】（以下、データベースは「DB」と略す）<sup>2)</sup>のデジタル典拠化の基となることを目指す。しかし、紙面の都合上、〔流派〕・〔人名〕と関連する【典拠】のみについて記す。【茶道具】、【茶室】等に関連する人名は、【ResearchGate】<sup>3)</sup>に本稿のデジタルデータに加えて更新記事メンテナンスする。

Abstract: I show and explain the method of discovering the digital authority, mainly for the “Japanese tea ceremony” related field from “National Diet Library Digital Collection”. Discuss the genealogy of the Japanese tea ceremony in order to revise the “Japanese Art Thesaurus Database” under construction. There are restrictions on the page, only people are discussed. Add names and matters related to tea tools, rooms and garden to “ResearchGate” (researcher’s SNS).

キーワード：茶道，茶人，茶書

Keywords: Tea ceremony, Tools of tea ceremony, Tea books

### 1 初めに

本稿は【茶道】に関連する分野について、「国会デジコレ」を主としたデジタル典拠を解説する。〔流派〕や【事項】の系統を論ずることで【日本美術シソーラスDB】のデジタル典拠化の基となることを目指す。従って、個々の事項に典拠を記載するが、【ウィキペディア】については個々の記事に典拠がある場合、その精査のためにも典拠として記述する<sup>4)</sup>。また、明治時代までの辞典は【古事類苑DB】（略称「類苑」）<sup>5)</sup>全文◎に記事があり、典拠が記載されているのでこちらにも記す。【コトバンク】は典拠がない故役立たない。しかし複数辞典を併記している故、署名付き通説として参考までに記載する<sup>6)</sup>。

また、書影を主としたデジタルアーカイブ<sup>7)</sup>には前述の「国会デジコレ」以外に以下のDBがよく利用される。◎【国文学研究資料館電子資料館日本古典籍総合目録DB】（略称「古典籍DB」）<sup>8)</sup>書影◎、◎【Google Books】<sup>9)</sup>書影◎、◎【nihuiNT】<sup>10)</sup>書影◎等。

さて、西暦804年〔唐〕〔陸羽〕(733-804)<sup>11)</sup>は『茶経』<sup>12)</sup>書影◎を著した。茶は薬として〈平安時代初期〉に〔最澄〕(766-802)<sup>13)</sup>記事全文◎、〔空海〕(774-835)<sup>14)</sup>記事全文◎等によって同年に我が国に将来されたもの（この事情については〔徐静波〕(2011)<sup>15)</sup>書影◎、〔陸留弟〕(2007)<sup>16)</sup>書影◎に詳しい）。〈鎌倉時代〉には禅僧〔荣西〕(1141-1215)<sup>17)</sup>解説◎が喫茶を広め『喫茶養生記』<sup>18)</sup>書影◎を表した。また、禅宗以外にも〔律宗〕中興の祖〔叡尊〕(1201-90)（解説：〔橋川正〕(1924)<sup>19)</sup>書影◎）が弘長二年（1262）二月六日に「儲茶」した記事がある（『関東往還記』）<sup>20)</sup>書影◎。茶の栽培は『日本後記』弘仁六年（815）六月記事に「令畿内并近江。丹波。播磨等國殖茶」とあり、〔最澄〕との関連が同

わせる<sup>21)全文◎</sup>。しかし、著名な事跡は、栄西禅師より茶種を受けた〔梅尾山高山寺〕開祖〔明恵上人〕<sup>22)書影◎</sup>の〔深瀬三本木〕である(解説：〔高山寺〕サイト)<sup>23)全文◎</sup>。薬用茶の風習は、〈南北朝時代〉には【闘茶】<sup>24)</sup>(茶の産地当て競技)という遊芸が出るまでになった。即ち、『太平記・卷廿九』「諸大名讒道朝事付道誉大原野花会事」に貞治五年(1366)、〔佐々木道譽〕(1296-1373)の記事にあるほど釈家・公家・武家間で流行した<sup>25)書影◎</sup>。室町時代、将軍〔足利義政〕(1436-90)<sup>26)解説◎</sup>の【同朋衆】〔能阿弥〕(1397-1471)<sup>27)解説◎</sup>は【唐絵】・【座敷飾】の『君台観左右帳記』<sup>28)書影◎</sup>や、『御飾記』<sup>29)書影◎</sup>著した。彼は義政の【唐物数寄】<sup>30)解説◎</sup>の師であった関係上、義政に〔一休宗純〕(解説『一休和尚年譜』)<sup>31)書影◎</sup>の弟子で禅僧〔村田珠光〕(1423-1502)<sup>32)解説◎</sup>の「侘茶」を紹介した。義政が珠光の茶の弟子となった関係や、〔珠光〕弟子で武将の〔古市澄胤〕(1452-1508)<sup>33)解説◎</sup>が〔興福寺〕の【官符衆徒】<sup>34)解説◎</sup>の関係などの理由で、珠光流の「侘茶」の茶道は、釈家・公家・武家を中心とした階層に広まった。「侘茶」の系譜は珠光の弟子〔武野紹鷗〕(1502-55)<sup>35)解説◎</sup>を経て〔千利休〕(1522-91)<sup>36)解説◎</sup>で大成した。以降、禅を基底とした日本文化として定着した。従って、禅文化や、その上で行われる【茶事】だけでなく、【茶道具】(【茶陶】、【茶釜】、【茶杓】、【香】、【炭】等)、茶掛けの書画、【立花】、【茶室】【茶庭】等の幅広い知識が必要となる。本稿では、紙面の都合上【茶人】に関するデジタル典拠を解説する。

典拠のWebサイトは2018年2月11日にすべて確認したので個々の註に日付は記載しない。見出しにヘボン式読みを加え、カタカナは原綴、中国語はピンインとした。「国会デジコレ」の一般公開は「書影◎」、「図書館送信資料」は「書影□」、「国会図書館内限定」は「書影△」で表わした。また、デジタル処理を容易にするため、必要な人物・団体は〔 〕、事項は【 】, 作品は《 》、典拠は『 〕、地域は { }、日時は〈 〉のタグで表記した<sup>37)解説◎</sup>。典拠論文はハーバード方式<sup>38)</sup>にタグをいれた。

## 2 {中国} の茶人

中国の【茶史】関連の探索方法としては「国会デジコレ」で、「インターネット公開資料」、「図書館送信資料」、「国立国会図書館内限定」をチェックし、キーワードを「茶書」、「茶芸」等で検索する。中国の茶書全集である『茶書』<sup>39)書影◎</sup>や「茶芸」では【電子資料】も表示される。また、「詳細検索」で【NDC分類】791(茶道)で「出版日古い順」100件ずつ表示する方法もある。あるいはキーワードを791.2(茶道史, 茶人伝)と絞る方法もよい。また、【維基文庫】<sup>40)全文◎</sup>に【清】〔劉源長〕の『茶史』<sup>41)全文・書影◎</sup>があり、前述の〔陸羽〕など19名の著書を記している。ここでは若干名を記載する。

〔皎然〕(730-799か)<sup>42)全文◎</sup>唐朝高僧。〔陸羽〕(733-804)、〔顔真卿〕(709-85)等と史上初の茶室〔三葵亭〕を作り、〔飲茶集団〕で「茶道」を提唱(〔陸留弟〕(2008)<sup>43)書影◎</sup>)

〔歐陽脩〕(1007-72)<sup>44)解説全文◎</sup>北宋政治家・文学者。「龍茶録後序」(『歐陽脩集, 卷65』<sup>45)</sup>)に【貢茶】を記す。

〔徽宗皇帝〕(1082-1135)<sup>46)解説全文◎</sup>北宋8代皇帝。茶書に『大観茶論』<sup>47)全文◎</sup>に「中国の最上茶は白色」との記述。

## 3 {日本} の茶人

### 3.1 検索方法

「日本の茶人と茶書」全文の検索方法は、前述の「国会デジコレ」以外にも定番検索手法がある。(次の手順は→で示す)

○前述の「類苑」<sup>註6)</sup>で「茶人名」や「茶湯」等のキーワードで検索→

典拠となった書名から「国会デジコレ」や、「古典籍DB」<sup>註8)</sup>、【Google Books】<sup>註9)</sup>や、【nihuINT】<sup>註10)</sup>等で書名検索

○学術論文は【CiNii Articles】<sup>48全文◎</sup>で「本文あり」にチェックしキーワード検索する。また、「全文検索」にチェックし、例えばキーワードの論理積検索「茶書 利休」で69件、「茶 利休」52件、「茶会記 利休」89件等表示される→「CiNii PDF オープンアクセス」や「機関リポジトリ」で全文を選択。

○2017年1月から学会誌等は【CiNii Articles】から【J-STAGE】<sup>49全文◎</sup>へ移行した故【J-STAGE】も利用されたい。

○「機関リポジトリ」は【JAIR】<sup>50全文◎</sup>で検索する。

○【Google】検索では、論理積検索に〔機関〕区別や【資料タイプ】などを加える。例えば「茶書 室町 ac.jp pdf」等。以上のような一般的な検索方法以外は別稿で述べる。

さて、茶人系譜は「類苑」（「遊戯部.九>茶湯.三>茶人大系譜」<sup>51全文◎</sup>に「茶道鼻祖：〔珠光〕（中略）〔眞能〕（中略）」とあるように鼻祖〔珠光〕以下をまとめている。〔珠光〕弟子で將軍の〔足利義政〕や、〔武野紹鷗〕弟子の〔本法寺〕〔日通〕（1551-1608）<sup>52解説◎</sup>のように僧侶もいる。ここでは、著名な【公家】、【武家】および、【茶匠】の流派を区分する。【茶書】は〔茶匠〕が著するものや、〔豊臣秀吉〕<sup>53解説◎</sup>の『北野大茶湯之記』のような記録や『松屋会記』<sup>54解説◎</sup>などの【茶会記】などがある。日本の【茶史】関連の史料解題は〔黒川真道〕の『日本喫茶史料』<sup>55書影◎</sup>がある。以下に記載しなかった日本の茶人は同書から「国会デジコレ」で確認されたい。

### 3.2 積家

前述した〔最澄〕、〔空海〕、〔叡尊〕、〔明恵〕、〔一休宗純〕、〔村田珠光〕、〔日通〕以外著名な積家は以下の通り（探し方は【SAT 新修大正大蔵経テキストDB 検索】（略称「SAT」）<sup>56書影◎</sup>をも推奨する）。

〔永忠〕（742-816）〔三論宗〕僧。遣唐使。〔梵釈寺〕住職、〔寿福寺〕大僧都。弘仁六年（815）四月癸亥〔嵯峨天皇〕に献煎茶の記事（『日本後記.卷廿四』）<sup>57書影◎</sup>

〔円仁〕（794-864）〔天台宗〕僧〔最澄〕弟子。承和五～十四年（838-47）の唐滞在記『入唐求法巡礼行記』を著す<sup>58)</sup>書影◎

〔成尋〕（1010-81）〔天台宗〕僧。1072年入宋。<sup>59解説◎</sup>『参天台五台山記.八卷』を著す書影◎<sup>60)</sup>。注38の〔陸留弟〕（2008）に滞宋の「茶」に関する記事を参照されたい。

〔道元〕（1200-53）〔禅宗〕〔曹洞宗〕開祖。〔興聖寺（京都）〕〔永平寺（福井）〕等を開創<sup>61解説◎</sup>。禅実践の規範を寛文七年（1667）に纏めた『永平元禅師清規.卷上』の「赴粥飯法」<sup>62)</sup>書影◎に「大坐茶湯」の記事がある。

〔玄恵法印〕（-1350）<sup>63解説全文◎</sup>、〔天台宗〕僧。茶書に『喫茶往来』<sup>64)</sup>書影◎がある。

〔沢庵宗彭〕（1573-1646）<sup>65解説全文◎</sup>、〔臨濟宗〕僧、〔大徳寺〕153世住職。〔徳川家光〕の帰依を受ける。茶道は〔小堀遠州〕の弟子。「劍禅一如」の書『劍法不動智神妙録』<sup>66)</sup>解説◎や、茶書には『結繩集』<sup>67)</sup>解説◎に「お茶を戴く心」がある。

〔隠元〕（1592-1673）<sup>68解説全文◎</sup>、日本〔黄檗宗〕開祖。日本に【煎茶法】を広める。

### 3.3 天皇・公家、武家、官僚等

ここでは、次節にある【茶道流派】を形成していない天皇、公家、武家を記す。

〔嵯峨天皇〕（786-842）<sup>69解説全文◎</sup>第52代天皇。【三筆】。【華道】〔嵯峨御流〕開祖。茶事は注49記事参照

〔正親町天皇〕(1517-93)<sup>70解説全文◎</sup>、第106代天皇。茶事は天正十三年(1585)、〔豊臣秀吉〕〔関白〕  
就任記念に〔禁裏茶会〕を催す。〔千利休〕後見「利休居士」号を賜う。〔廣田吉崇〕  
(2011)<sup>71書影◎</sup>

〔源実朝〕(1192-1219)<sup>72解説全文◎</sup>〔鎌倉幕府〕三代将軍。建保二年(1215)二月四日、病につき、  
〔葉上僧正〕(宋西)より茶と『喫茶養生記』を受けた記録あり(『吾妻鏡』記事検索方  
法<sup>73全文◎</sup>)。

〔松平不昧〕(1192-1219)<sup>74解説全文◎</sup>、著書に『古今名物類聚』<sup>75書影◎</sup>がある。

〔井伊直弼〕(1815-60)<sup>76解説全文◎</sup>13代彦根藩主。江戸幕府【大老】。茶書に『茶湯一会集』<sup>77書誌</sup>が  
ある。

### 3.4 茶匠

日本茶道の系譜は「類苑」の「茶人大系譜」や、『読史備要』(略称「備要」1938年刊)<sup>78書影◎</sup>等  
がある。「備要」をまとめると以下の通り(一は弟子、|は同列の兄弟弟子。紙面の都合で一部  
省略。註は、ここでは、著名茶人や【流祖】及び、著書ありの〔枠付き茶人〕に付す)。

〔真能〕<sup>註27全文</sup>門 — 〔真芸〕<sup>79解説全文◎</sup> — 〔真相〕<sup>80解説全文◎</sup> — (以下略)  
| — 〔空海〕 — 〔北向道陳〕 — 〔千利休〕<sup>註36全文</sup>

A〔珠光〕門 — a〔足利義政〕 | b〔志野宗信〕 | c〔古市澄胤〕 | d〔宗悟〕 | e〔宗陳〕  
| f〔津田宗伯〕

d〔宗悟〕e〔宗陳〕門 — B〔武野紹鷗〕<sup>註34</sup>

B〔武野紹鷗〕門 — a〔武野宗瓦〕 | b〔津田宗達〕<sup>81解説◎</sup> ( — 〔津田宗及〕<sup>82解説◎</sup> ) |  
c〔神谷宗湛〕<sup>83解説◎</sup> | d〔細川幽斎〕 | e〔今井宗久〕<sup>84解説全文</sup> | f〔本法寺日通〕<sup>註52</sup> |  
①〔千利休〕<sup>註36全文</sup>)

①〔千利休〕門 — A1〔千道安〕 | ②〔千宗淳〕(小庵) | C〔織田信長〕 | D〔豊臣秀吉〕<sup>註53</sup>  
| E〔古田織部〕<sup>85解説全文</sup> | F〔藪内紹智〕 | G〔蒲生氏郷〕 | H〔細川三斎〕<sup>86解説◎</sup> | I  
〔荒木村重〕 | J〔前田玄以〕 | K〔瀬田正忠〕 | L〔芝山監物〕 | M〔高山右近〕  
| N〔金森長近〕 | O〔山上宗二〕<sup>87解説◎</sup>  
( \_ は利休七哲 )<sup>88解説全文</sup>

A〔千道安〕門 — A〔金森可重〕 | B〔桑山貞晴〕(以下略)

②〔千宗淳〕(小庵)門 — ③〔千宗旦〕 | B〔山科宗甫〕

③〔千宗旦〕門 — A〔千宗拙〕 | ④〔千宗佐(江岑)〕 | C〔千宗室〕 | D〔千宗守〕 | E  
〔藤村庸軒〕 | F〔山田宗徧〕<sup>89解説全文</sup>

〔表千家〕

④〔千宗佐(江岑)〕 — ⑤〔良休宗佐〕 — ⑥〔原叟宗佐〕 | 〔尾形乾山〕 | 〔尾形光琳〕 |  
〔久田宗全〕  
| — ⑦〔天然宗佐〕 ⑧〔咩翁宗佐〕 | 〔川上不自〕<sup>90解説全文</sup>  
| — ⑨〔曠叔宗佐〕 — ⑩〔祥翁宗佐〕 — ⑪〔瑞翁宗佐〕 — ⑫〔敬翁宗佐〕 — ⑬〔無盡宗佐〕 —  
| — (14)〔千宗佐〕

〔裏千家〕

①〔仙叟宗室〕 — ②〔常叟宗室〕 — ③〔泰叟宗安〕 — ④〔竺叟宗乾〕 — ⑤〔一燈宗室〕 —  
| — ⑥〔石翁宗室〕 — ⑦〔柏叟宗室〕 | a〔千宗玄〕

〔千家武者小路〕

①〔一翁宗守〕 — ②〔文叔宗守〕 — ③〔眞伯宗守〕 — ④〔眞斎宗守〕 — ⑤〔啜斎宗守〕

### 〔織部流〕

①〔古田織部正〕<sup>註85)</sup>。—〔徳川秀忠〕|〔慈胤法親王〕|〔近衛信尋〕|〔小堀政一〕|〔本阿弥光悦〕

### 〔藪内流〕

①〔剣仲紹智〕<sup>91解説◎</sup>—〔真翁紹智〕—〔剣翁紹智〕—〔剣溪紹智〕—（後略）

### 〔遠州流〕

①〔小堀政一〕<sup>92解説◎</sup>—〔徳川家光〕|〔小堀政尹〕|〔沢庵宗彭〕<sup>註65)</sup>|〔江月宗玩〕<sup>註81参照</sup>|〔滝本房昭乗〕<sup>93解説◎</sup>|〔狩野守信〕（後略）

### その他

〔宗和流〕の〔金森宗和〕<sup>94解説◎</sup>、『南方録』<sup>註36に記述)</sup>の著者〔南坊宗啓〕<sup>95解説◎</sup>、〔石州流〕の〔片桐貞昌〕<sup>96解説◎</sup>などがある。

## 4 茶書

本稿では〔江戸時代〕までの【茶人】の典拠として【茶書】を記載した。ここでは上記に記載しなかったが重要な茶書を数例示す。

書影□『分類草人木』<sup>97)</sup>【茶道】創世記の茶書。永禄七年（1564）〔武野紹鷗〕門〔真松斎春溪〕筆録（奥書）。

書影◎〔田中仙樵〕<sup>98)</sup>『茶禅一味』<sup>99)</sup> 1905年刊行。〔大日本茶道学会〕元会長の茶書

全文◎〔岡倉天心〕<sup>100)</sup>『茶の本』（〔村岡博〕訳）<sup>101)</sup>

## 5 おわりに

日本美術のシソーラス構築には【絵画】、【彫刻】、【工芸】、【書】、【諸芸】、【建築】等の【視覚芸術】に関わる〔人物〕、《作品》、【用語】の分類体系化が必要である。また、近現代まで含める場合、【音楽】、【演劇】、【映像表現】等の【パフォーマンスアート】が含まれ、せまい概念の【美術】ではなく、【芸術】概念の体系化が必要になる。【茶道】は【総合芸術】として、【禅】、【絵画】、【茶掛】、【茶道具】、【茶室】・【茶庭】等、複数分野の知識とその体系化が必要である。本稿では、紙面の都合上、茶人の系統と茶書についてのみ、記載せざるを得なかった。本稿の改訂版や、【陶芸】等記載しなかった人物、用語についてのデジタル化用基礎資料は、【ResearchGate】<sup>註3全文◎</sup>にアップ可能であるので、今後作業を進める予定である。

## 注

1 Kokuritsu Kokkai Toshokan Digital Collection | 【国立国会図書館デジタルコレクション】

<http://dl.ndl.go.jp/>

〔国立国会図書館〕全蔵書中、【著作権】の切れた資料をデジタル化し、オープンデータ資料を含め、インターネット経由で1998年から公開しているサービス（詳細は『国立国会図書館デジタルコレクションの歩み』を参照のこと <http://dl.ndl.go.jp/ja/history.html>）。著作権が切れているが権利関係が不明な資料は、要望のあり許可した図書館へ「図書館送信資料」として2014年からサービスを開始している。一般公開を「書影◎」、「図書館送信資料」を「書影□」と表示する。

2 Nihon Bijutsu Sisaurus Database | 【日本美術シソーラスデータベース】

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/jart/>

〔筑波大学日本美術シソーラスデータベース作成委員会〕（1992-96）が作成した「絵画編」のデータベー

- スを2005年3月から Web 公開。
- 3 ResearchGate <https://www.researchgate.net/> ドイツでメンテナンスしている研究者用 SNS。  
Hiroatsu Fukuda ページ：[https://www.researchgate.net/profile/Hiroatsu\\_Fukuda](https://www.researchgate.net/profile/Hiroatsu_Fukuda)
  - 4 Wikipedia | 【ウィキペディア】 <https://ja.wikipedia.org/wiki/メインページ> 2001年日本語版開設。  
記事の履歴と個々の記事の典拠を保証することで誰でも自由に編集できる百科事典。従って、個々の記事に典拠がない項目は信頼できないが、協同入力で記事を養成する。典拠のない記事は他言語を参照するか、気づいた研究者が修正することが前提である。現在50カ国語、日本語版は109万記事。
  - 5 Koji Ruien Database | 【古事類苑データベース】 <http://base1.nijl.ac.jp/~kojiruien/> 明治時代以前の出典のある本邦最大辞典。〔国文学研究資料館〕と〔国際日本文化研究センター〕と共同の検索システムがある。
  - 6 kotobanku | 【コトバンク】 <https://kotobank.jp/dictionary/> 〔朝日新聞社〕等が提供。『ニッポニカ』『マイペディア』等の全文と『世界大百科事典第2版』の抜粋がある。
  - 7 Digital Archive | 【デジタルアーカイブ】 Digital preservation = デジタル保存の和製英語。解説はウィキペディア等で参照されたい。
  - 8 Kokubungaku Kenkyu Shiryokan : Denshi Shiryokan : Nihon Kotenseki Sogo Mokuroku DB | 【国文学研究資料館 電子資料館日本古典籍総合目録DB】 <http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/>
  - 9 Google Books | 【Google ブックス】 <https://books.google.co.jp/> 日本では慶應義塾大学図書館の書影が利用できる。
  - 10 nihuINT | 【nihuINT 統合検索システム】 <https://int.nihu.jp/> 〔人間文化研究機構〕(〔国立歴史民俗博物館=歴博〕、〔国文学研究資料館=国文研〕、〔国立国語研究所=国語研〕、〔国際日本文化研究センター=日文研〕、〔総合地球環境学研究所=地球研〕、〔国立民族学博物館民博〕)に〔地域研究拠点〕、〔国立国会図書館〕、〔京都大学東南アジア地域研究研究所〕のDBの統合検索。
  - 11 Lu Yu | 〔陸羽〕中国唐代の知識人。伝記は『新唐書卷二百十九』(列傳第一百二十一 隱逸)(維基文庫) <https://zh.wikisource.org/wiki/新唐書/卷196> にある。ここで【維基文庫】をデジタル典拠に入れたのは、テキスト協同入力での「誤記事」がある場合、履歴を見ること、さらに、「誤記事」に気が付いた研究者が訂正することを前提にしているからである。古典籍は写本の「誤記事」を校正することにも意味がある。デジタル典拠も同様であるが、協同で典拠付きデータとして校正することで学問の深化に繋がる。
  - 12 Chakyo | 『茶経. 3巻』/唐〔陸羽〕撰.一 明刊(百川學海壬集)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536555>  
【維基文庫】には全文がある。 <https://zh.wikisource.org/wiki/茶經> 「類苑」では遊戯部「茶湯」、「茶湯具」、「煎茶」等に複数記事がある。
  - 13 Saicho | 〔最澄〕、〔伝教大師〕、日本〔天台宗〕の開祖。  
コトバンク記事：<https://kotobank.jp/word/最澄-68072>  
ウィキペディア記事：<https://ja.wikipedia.org/wiki/最澄> 「類苑」検索45件。  
[http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0035940kjr](http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/G0035940kjr) で最澄を検索。 茶を日本に持ち帰った記事：『頭戒論縁起.巻上』(『国会デジコレ』伝教大師全集.第1巻 コマ149所収)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1020630/145?viewMode=> 「(前略)三月初吉、避方景濃。酌新茗以饒行。対春風以送遠。上人環國調奏(後略)」
  - 14 Kukai | 〔空海〕、〔弘法大師〕、日本〔真言宗〕の開祖。  
コトバンク記事：<https://kotobank.jp/word/空海-16397>  
ウィキペディア記事：<https://ja.wikipedia.org/wiki/空海> 「類苑」127件。

- [http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0035940kjr](http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/G0035940kjr) で空海を検索。空海と茶の記事：『遍照發揮性靈集 10巻. [2] / [大遍照金剛和尚] 文, 慶長頃 (国会デジコレ2543946 コマ32所収)
- <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2543946> 即ち「猷梵字弁雑文表」弘仁五年 (814) 七月廿八日の項に「暇時學印度之文茶湯座來乍」と、学問の間に茶湯を飲む生活が伺える。
- 15 Chugoku niokeru Ocha Bunka no Tenkai to sono Nihon eno Shoki Denrai | 「中国におけるお茶文化の展開とその日本への初期伝来」/ [徐, 静波] 著『京都大学生涯教育学・図書館情報学研究』10, 2011, p. 153-163
- [https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/139407/1/edsy10\\_153.pdf](https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/139407/1/edsy10_153.pdf)
- 16 Tanoshimi no Cha to Tashinami no Cha | 「楽しみの茶と嗜みの茶：中国から見た茶の湯文化」/ [陸, 留弟]
- <http://www.nichibun.ac.jp/graphicversion/dbase/forum/index.html> [国際日本文化研究センター]「日文研フォーラム」2007.3.13
- 17 Eisai | [栄西] 別称 [葉上房], [千光祖師], [明庵栄西]【臨濟禪】をコトバンク解説：  
<https://kotobank.jp/word/明庵栄西-1114008> ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/明庵栄西> 東京大学史料編纂所の「大日本史料総合データベース」  
<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller> では15記事ある。[建仁寺開山堂] 安置の木像画像は『京都茶業写真総覧』<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1086927> コマ7にあり。
- 18 Kissa Yojoki | 『喫茶養生記』/ [明庵栄西] 記。— 銭屋惣四郎, 刊年不明。  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2535733>  
【茶室】の【座敷飾】の書。『吾妻鏡：吉川本 第1-3』<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1920991>  
建保二年 (1215) 二月四日  
記事コマ56：「將軍家 [源実朝] 聊御病悩 (中略) 葉上僧正侯御加持之處、聞此事、称良薬、自本寺召進茶一盞、而相副一卷書令献 (後略)」  
御加持 (中略) 進茶一盞、而相副一卷書令献之」が『喫茶養生記』である。
- 19 Kosho Bosatsu Eizon no Jijoden nitsuite | 「興正菩薩叡尊の自叙傳について」/ [橋川, 正, 1894-1931] 著 (『日本仏教文化史の研究』中外出版, 1924 コマ208所収)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/971106/208?viewMode=> [叡尊] が著した『感身学正記』(『西大寺叡尊伝記集成』奈良国立文化財研究所編, 1956所収<sup>書誌</sup>) からの解説。
- 20 Kanto Okanki | 『関東往還記』/ [叡尊思円] 著。—1262 (史籍雜纂, 第1所収)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1912970> コマ9
- 21 Nihon Koki | 『日本後記』(朝日新聞社本) [荒山慶一] 入力・校訂。  
<http://www.j-texts.com/chuko/kouki.html> 「弘仁六年六月壬寅令畿内井近江、丹波、播磨等国殖植茶、毎年献之」つまり、嵯峨天皇は畿内等へ植茶させた記事。注12の [徐静波] (2011) p.159では、[嵯峨天皇] と [最澄] の関係を記述している。
- 22 Kozanji Myoe Shonin Gyojo | 『高山寺明恵上人行状』(『史籍雜纂. 第一』国書刊行会, 1911-12 所収)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1912970/17?tocOpened=1> コマ17.
- 23 Toganoosan Kozanji | [榎尾山高山寺] Web サイト>茶園 <http://www.kozanji.com/chaen.html>
- 24 Tocha | 【闘茶】別名：「十種茶」, 「百服茶」, 「本非茶勝負」, 「回茶」, 「貢茶」, 「茶寄合」, 「茗茶」, 「銘闘」など。
- 25 Taiheiki. Maki 39 | 『太平記. 卷39』荒木利兵衛, 1650 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2570107>  
コマ24「百服の本非を飲んで、懸物如山積上たり」の記事。即ち、[斯波高経道朝] と [佐々木道譽] の争

いで、道譽側の花見宴で百服の茶の本茶（明恵上人の梅尾の茶）と非茶（それ以外）を飲んで当て、懸賞品を山積させた記事である。この「本非」を当てる競技を【闘茶】という。

- 26 Ashikaga, Yoshimasa | [足利, 義政, 1436-90] <https://ja.wikipedia.org/wiki/足利義政> ここで【ウィキペディア】をデジタル典拠に入れたのは、【維基文庫】同様の理由からである。【ウィキペディア】は個々の記事の「典拠」と「履歴」で記事を保証し、既に「公共財」としての事典に成長している。従って、「誤記事」に気が付いた研究者等が訂正することを前提に記事を記載する。デジタル典拠は、協同で典拠付きデータとして校正することで学問の深化に繋がるので協力されたい。

室町幕府 8代将軍足利義政は、文化面では、【応仁の乱】後、文明十四年（1482）から【東山殿】を造営。義政の【同朋衆】で『君台観左右帳記』を著した〔能阿弥〕の【唐物数寄】の茶道を大成させ、能阿弥の勧めで〔村田珠光〕に着き【侘茶】の意識も入れた（〔渡辺誠一〕「侘茶の系譜：『山上宗二記』（1）」（『明治大学人文科学論集』34, p.24-27, 1987.3

[https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/4211/1/jinbunkagakuronshu\\_34\\_11.pdf](https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/4211/1/jinbunkagakuronshu_34_11.pdf) 所収)

- 27 Noami | [能阿弥] 名〔真能〕。号〔鷗斎〕、〔春鷗斎子〕。複数辞典の【コトバンク】  
<https://kotobank.jp/word/能阿弥> を参照のこと。能阿弥の『君台観左右帳記』に表れる美意識（唐物の中でも基底としての「やまと絵」的、汎神論世界観のある書画・骨董を選ぶ美意識）は、以降現代まで日本美術の中核的位置を占める。
- 28 Kundaikan Sochoki | 『君台観左右帳記』/〔能阿弥〕著。一有隣堂，1884  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849483>  
異本：写本 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2539239> 解題は『典籍説稿』/〔山田, 孝雄, 1873-1958〕西東書房, 1934 書影◎<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1902258> コマ170,
- 29 Okazariki | 『御飾記』/〔能阿弥〕著。一写本（大永三年〔1523〕十二月九日松雪斎鑑岳真相刊、伊勢貞春〔1760-1813〕及流布印本校合）「国会デジコレ2539231」書影◎  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2539231> 「国文学研究資料館電子資料館」写本；寛永四年〔1627〕八月十日写本、
- 30 Karamonosuki | 【唐物数寄】。解説【コトバンク】<https://kotobank.jp/word/唐物数寄-162050>。
- 31 Ikkyu Osho Nenpu | 『一休和尚年譜』  
[http://base1.nijl.ac.jp/iview/Frame.jsp?DB\\_ID=G\\_0003917\\_KTM&C\\_CODE=0006-014205](http://base1.nijl.ac.jp/iview/Frame.jsp?DB_ID=G_0003917_KTM&C_CODE=0006-014205) [一休宗純] 別名：周建, [華叟禪師] に師事。事跡により「風狂」と称される。81才〔臨濟宗大徳寺〕第47世住職。  
解説1：コトバンク：<https://kotobank.jp/word/一休宗純-15378> 解説2：ウィキペディア；  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/一休宗純>。著書：『狂雲集』<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/822930>  
国訳『狂雲集』<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1920759> コマ136-
- 32 Murata Juko (Murata Shuko) | [村田, 珠光, 1423-1502] コトバンク解説：  
<https://kotobank.jp/word/村田珠光> 幼名〔茂吉〕〔木一子〕別号：〔香楽庵〕, [珠光庵], [南星], [独炉庵]。能阿弥に【唐物数寄】、【立花】を学ぶ。【連歌】
- 33 Furuichi Choin | [古市, 澄胤] コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/古市澄胤> [倫観房澄胤]、文明十年〔1478〕官符衆徒。
- 34 Kanpu no Shuto | 【官符衆徒】コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/官符衆徒>
- 35 Takeno Joo | [武野, 紹鷗, 1502-55]コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/武野紹鷗> 「類苑：遊戯部七>茶湯三>茶人：画像：p.603」  
[http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruien/html/yugi\\_1/yugi\\_1\\_0603.html](http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruien/html/yugi_1/yugi_1_0603.html) 紹鷗論については、〔戸田勝久〕



「武野紹鷗論 : 宗朝を中心として武野家の茶の湯を探る」(<http://jairo.nii.ac.jp/0050/00041672>) 他を参照。

- 36 Sen no Rikyu (Sen Rikyu) | [千, 利休, 1522-1591] [利休流] 茶道の祖。[織田信長] [豊臣秀吉] の【茶頭】。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/千利休> ウィキペディア解説：

<https://ja.wikipedia.org/wiki/千利休> 「類苑>遊戯部七>茶湯一」書影：p.376：

[http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruuen/html/yugi\\_1/yugi\\_1\\_0376.html](http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruuen/html/yugi_1/yugi_1_0376.html) 『利休書状』が数多ある。例：《千宗易(利休)書状》[福岡市博物館] 蔵 ([Google Art & Culture] 掲載)

[https://www.google.com/culturalinstitute/beta/asset/千宗易-利休\)書状/2 AHoqpDotrdqjw?hl=ja](https://www.google.com/culturalinstitute/beta/asset/千宗易-利休)書状/2 AHoqpDotrdqjw?hl=ja)  
茶書『南方録』は『ブリタニカ国際大百科辞典』

(コトバンク所収 <https://kotobank.jp/word/南方録-108975>) にも「7巻。文禄2(1593)年成立。千利休の高弟である堺の南宗寺の僧南坊宗啓が、利休から授かった口伝秘事を書きとどめたもの」と記されるが、[熊倉功夫]の指摘等で現在は偽書説が通説([蒲生諒太]「哲学者 = 実践家としての久松真一：茶道の講話を手がかりに」『京都大学大学院教育学研究科紀要』京都大学学術情報リポジトリ所収

[https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/189301/1/eda\\_60\\_209.pdf](https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/189301/1/eda_60_209.pdf) ほか、に詳しい)。

伝記は弟子の[山上宗二]の『山上宗二記』を参照されたい。

- 37 Digital Hoshiki no Tag | 「デジタル方式のタグ」XMLやHTML、Media Wiki、JSONなど、デジタルデータの要素(例：タイトルとか作者とか、改行とか)を、単なるテキスト文に開始タグ、終了タグを決めることで、コンピュータにタイトルとか作者とかの要素を分かるようにする仕組み。例えば冊子体でも『著作のタイトル』のように従来から行われてきた(『が開始タグ、』が終了タグ)。

- 38 Harverd Houshiki | 【ハーバード方式】論文中に著者の姓(出版年)と書き、参照文献を巻末に記入するハーバード大学の方式。ここでは姓名(出版年)を記入し脚注番号で巻末参照にリンクを飛ばす

- 39 Cha-shu (Chasho) | 『茶書』/ [明] [諭政] 輯, 1613 [国会デジコレ2554204]

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2554204> に以下の書がある。

NDLJP: 2554204 第1-2冊 [仁部第1、2冊『茶經3巻』/ 唐陸羽撰 第2冊『張伯淵茶録1巻』/ 明張源撰]

NDLJP: 2554205 第3-4冊 [第3冊『東溪試茶録1巻』/ 宋宋子安撰『宣和北苑真茶録1巻』/ 宋熊蕃撰『北苑別録1巻』/ 宋熊克撰『品茶要録1巻』/ 宋黃儒撰 義部 第4冊『茶譜1巻』/ 明顧元慶撰『茶具圖贊1巻』/ 明茅一相撰『茶寮記1巻』/ 明陸樹聲撰『苐茗録1巻』/ 宋陶穀撰]

NDLJP: 2554206 第5-6冊 [第5冊『煎茶水記1巻』/ 唐張又新撰『水品2巻』/ 明徐獻忠撰『湯品1巻』/ 唐蘇廙撰『茶話1巻』/ 明陳繼儒撰 禮部 第6冊『茗笈贊評2巻』/ 明屠本峻撰『茗笈品藻1巻』/ 明屠本峻撰『煮泉小品1巻』/ 明田藝蘅撰 智部]

NDLJP: 2554207 第7-8冊 [第7冊『茶録1巻』/ 宋蔡襄撰『茶考1巻』/ 明陳師撰『茶説1巻』/ 明屠隆撰『許然明茶疏1巻』/ 明許次杼撰 第8冊『茶解1巻』/ 明羅廩撰『蒙史2巻』/ 明龍膺撰『蔡端明別紀摘録1巻』/ 明徐勃撰『茗譚1巻』/ 明徐勃撰 信部]

NDLJP: 2554208 第9-10冊 [第9、10冊『茶集2巻烹茶圖集1巻』/ 明諭政撰]

- 40 Wei-ji Wen-ku (Wiki Bunko) | 【維基文庫】<https://zh.wikisource.org/wiki/Wikisource:首頁> 電子図書館ウィキソースの中国語版

- 41 Cha-shi (Chashi) | 『茶史』/ [劉源長] 全文：維基文庫：<https://zh.wikisource.org/wiki/茶史> 以下、掲載著作：

[陸羽]『茶經』、[裴汶]『茶述』、[毛文錫]『茶譜』、[溫太真]『嶠真上茶條例』、[蔡君謨]『茶錄』、[蔡

宗顔)『茶山節對』、〔丁謂)『北苑茶錄』、〔蘇廙)『仙芽傳』、〔黃儒)『品茶要錄』、〔鮑昭妹令暉)『茶香茗賦』、〔潘存中)『茶論』、〔張芝羹叟)『唐茶品』、『茶譜通攷』、〔宋徽宗)『大觀茶論』、『十二篇』、『皆論碾餅烹點』〔唐穀)『十六湯』、『江州刺史)〔張又新)『煎茶水記』、『唐母景)『茶飲序』、『魏暉翁)『邛州茶記』等。

書影：『茶史. 卷1-2, 補』/〔劉源長)著；〔劉謙吉)輯；〔陸求可)訂,〔梶田勘助),〔出版年不明) [http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo\\_09/wo\\_09\\_03696/index.html](http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo_09/wo_09_03696/index.html)

- 42 Jiao-ran (Konen) | 〔皎然) 詩僧 コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/皎然-62994>
- 43 Chakai to Chagei niokeru Shoyoso | 「茶会と茶芸に関する諸要素：中国茶芸の歴史、文化、習慣、特徴と日本茶道の型、気、美、禪」/〔陸, 留弟)『日本研究』37, p, 13-53書影◎  
<https://ci.nii.ac.jp/naid/120005681495>
- 44 Hui-zong (Oyo-Shu) | 〔歐, 陽脩) コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/歐陽脩-449381>
- 45 Hui-zong (Oyo-Shu Shu) | 『歐陽脩集, 卷65』[https://zh.wikisource.org/wiki/歐陽脩集/卷\\_065](https://zh.wikisource.org/wiki/歐陽脩集/卷_065)「龍茶録後序」に「茶為物之至精, 而小團又其精者, 錄敘所謂上品龍茶者是也」と記す(註38陸留弟(2008) p. 22に和訳あり)。
- 46 Hui-zong (Kiso Kotei) | 〔徽宗皇帝)〔北宋) 第八代皇帝。〔金軍) の捕虜となり、〔五国城) で没す。悪政の皇帝だったが、書画文の才で、書体【瘦金体】を創始、画では【院体画】の大家で著名。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/徽宗-50693> ウィキペディア解説：  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/徽宗>
- 47 Da Guan Cha Lun | 『大觀茶論』/〔趙佶) 著 全文◎：維基文庫  
<https://zh.wikisource.org/wiki/大觀茶論>
- 48 CiNii Articles 〔国立情報学研究所) が収集提供。日本の学術論文の記事全文検索・書誌検索。オープンな学会誌は【J-Stage】へ移行。<https://ci.nii.ac.jp/>
- 49 J-STAGE | 〔国立研究開発法人科学技術振興機構) (JST) が収集提供。  
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/> 日本のオープンな学術論文の記事全文検索。
- 50 JAIRO | 〔国立情報学研究所) が収集提供。 <http://jairo.nii.ac.jp/> 日本の大学等研究機関のオープンなデジタルアーカイブの横断全文検索。
- 51 Chaji Daikēifu | 「茶人大系譜」(「類苑」遊戯部九>茶湯三)  
[http://base.1.nijl.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0035940kjr](http://base.1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/G0035940kjr)「類苑」で「茶道 系譜」を検索。
- 52 Nittsu | 〔日通)〔日蓮宗) {京都)〔本法寺) 第十世。  
コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/日通-17343> 〔本阿弥家)、〔長谷川等伯) が帰依。著書『等伯画説』<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1873191><sup>書影</sup>□
- 53 Toyotomi Hideyoshi | 〔豊臣, 秀吉, 1536-98) 関白。  
コトバンク解説；<https://kotobank.jp/word/豊臣秀吉>  
ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/豊臣秀吉> 茶会記に『北野大茶湯之記』(書影◎〔早稲田大学図書館) 蔵  
[http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo\\_09/wo\\_09\\_04286/index.html](http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo_09/wo_09_04286/index.html) )。「類苑」遊戯部七>茶湯一に「北野の茶湯」で出現：  
[http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruien/html/yugi\\_1/yugi\\_1\\_0376.html](http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruien/html/yugi_1/yugi_1_0376.html)
- 54 MatsuyaKaiki | 『松屋会記』(〔桂又三郎) 校註 松屋會記が雑誌『日本美術工芸』に連載である。国会デジタル書影□ (1) 2281575 - (3) 2281577, (4) 2281579- (9) 2281584まで,  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2281575> 以下略)

- 55 Nihon Kissa Shiryo | 『日本喫茶史料』 / [黒川, 真道, 1866-1925] 青山堂, 1909.  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/860747>
- 56 SAT Shinshu Taisho Daizokyo Text Database | 【SAT 新修大正大蔵経テキストデータベース検索】 :  
<http://21.dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/satdb.2015.php>
- 57 Eichu (Yochu) | [永忠] : [梵釈寺]。宝亀三年(772) [武生鳥守] に随伴「送渤海客使武生鳥守等解纜入海」遣唐使。弘仁六年(815) 四月癸亥、[嵯峨天皇] {近江国韓崎} 行幸に際し、「手自煎茶奉御」、つまり、煎茶を捧げた(『日本後記. 卷廿四』全文◎ : [荒山慶一] 氏入力『日本後紀(朝日新聞社本)』  
<http://www.j-texts.com/chuko/kouki.24.html> 書影◎ : 『六国史 : 国史大系, 日本後記・続日本後記・文徳実録』経済新聞社, 1916, 国会デジコレ コマ95所収  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/950690/79?viewMode=> )
- 58 Ennin | [円仁] : [慈覚大師]。[最澄] の弟子。承和五年~十四年(838-47) の唐滞在記『入唐求法巡礼行記』を著す(東洋文庫論叢; 第7所収)。第1-第4 :  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/987528> - <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/987531> 【団茶】記事は<会昌>五年(845)五月十五日
- 59 Jojin | [成尋] [天台宗] 僧侶。[善慧大師] 【阿闍梨傳燈大法師位】。コトバンク解説 :  
<https://kotobank.jp/word/成尋-79382> 「[藤原佐理] の子記事は誤りか」とウィキペディア解説 ;  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/成尋> で示している。  
 [善慧大師] の事情については、「成尋の在宋活動についての一考察 : 宮廷における祈雨を中心に」 / [曹星] (『朝日大学一般教養紀要』39, 2013, p.67-77所収) <https://ci.nii.ac.jp/naid/110009803939> を参照されたい。
- 60 San Tendai Godaisanki | [成尋] 『参天台五台山記. 八卷』書影◎コマ5  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/952819/5?viewMode=>
- 61 Dogen | [道元] コトバンク解説 : <https://kotobank.jp/word/道元-103480>  
 ウィキペディア解説 : <https://ja.wikipedia.org/wiki/道元>  
 古事類苑 DB : [http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0035940kjr](http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/G0035940kjr) 典拠付き解説や引用が26件。
- 62 Eihei Gen Zenji Seiki | 『永平元禪師清規』 / [道元] 書影◎  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/822860/38?tocOpened=1> コマ38。  
 「SAT」 <http://21.dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/satdb.2015.php> では「道元 茶」検索で「永平清規(No. 2584 道元撰) in Vol. 82」に該当記事がある。
- 63 Gen'e Hoin | [玄恵] 【法印】、[独清軒] [健叟] [玄慧]。  
 コトバンク解説 : <https://kotobank.jp/word/玄恵-60269>
- 64 Kissa Orai | 『喫茶往来』 / [玄恵] 撰(国会デジコレ1708814 コマ207)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1708814/207>
- 65 Takuan Soho | [沢庵宗彭] 【法印】、[独清軒] [健叟] [玄慧]。  
 コトバンク解説 : <https://kotobank.jp/word/玄恵-60269>
- 66 Kenpo Fudo Chishimyoroku | 『剣法不動智神妙録』 / [沢庵宗彭] 著 ; [伊藤康安] 編解, 昭和書房, 1934 (新釈沢庵和尚法語コマ145所収) <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1259004/110?tocOpened=1>
- 67 Kechijoshu | 『結繩集』 / [沢庵宗彭] 著 ; [伊藤康安] 編解, 昭和書房, 1934 (新釈沢庵和尚法語コマ143-144所収) <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1259004/110?tocOpened=1> 沢庵の禪は [笠井哲] 「沢庵禪と茶道」(『印度學佛教學研究』49(1), 2010, p.246-250に詳しい。  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/ibk.1952/49/1/49\\_1\\_246/\\_pdf/-char/en](https://www.jstage.jst.go.jp/article/ibk.1952/49/1/49_1_246/_pdf/-char/en)

- 68 Ingen | [隠元] [城州] [萬福寺]沙門[隆琦] [大光普照国士]。『和漢高僧伝、下』(国会デジコレ817520) コマ38 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/817520> 書影◎。『本朝高僧伝、四十五：浄禅』(「類苑」宗務部第1巻)  
[http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruien/html/syuk\\_1/syuk\\_1\\_0765.html](http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruien/html/syuk_1/syuk_1_0765.html) 書影◎ コトバンク解説：書影◎  
<https://kotobank.jp/word/隠元-437284>
- 69 Saga Tenno | [嵯峨天皇] コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/嵯峨天皇-68518> ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/嵯峨天皇> 注49記事に加え『日本後記、卷廿四』「弘仁六年[815]六月壬寅 令畿内并近江。丹波。播磨等國殖茶。毎年獻之」とあるように植茶された。
- 70 Ogimachi Tenno | [正親町天皇] コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/正親町天皇-17864> ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/正親町天皇>。
- 71 Kinri Chakai | 【禁裏茶会】記事：[廣田吉崇]「近代における茶の湯家元と天皇の距離」(『日本研究』, 44, 2011, p.77-130) [http://202.231.40.34/jpub/pdf/js/IN\\_4402.pdf](http://202.231.40.34/jpub/pdf/js/IN_4402.pdf) によると天正十三年九月の「利休居士号」等の記録を万延元年(1860)[千宗室](玄々斎)口上の事情を論じている。[表千家] Web サイト「茶の湯：こころと美」>「利休の生涯」[http://www.omotesenke.jp/list\\_3/list\\_3-1/list\\_3-1-3/](http://www.omotesenke.jp/list_3/list_3-1/list_3-1-3/)
- 72 Minamoto-no-Sanetomo | [源実朝] コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/源実朝> ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/源実朝>。
- 73 Azumakagami Kiji Kensaku Hoho | 『吾妻鏡』記事 検索方法：「類苑」で「実朝 茶」→「方技部十一： 醫術二：内科」で『本朝醫談』記事：「東鑑建保二年二月己亥、將軍○源實朝 聊御病惱、諸人奔走、但無殊御事、去夜御淵醉餘氣歟、爰葉上僧正候御加持之處、聞此事、稱良藥自本寺召進茶一盞、而相副一卷書令獻之、(中略) 一卷の書といふは、即喫茶養生記也、茶の機能を擧たれども、元來醫家の書にあらざれば、もれたる主能もあり(後略)」のような記事が出る。(下線は筆者)。次に、【Google】で「吾妻鏡 全文 葉上僧正」と絞込み検索→  
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~micro-8/toshio/azuma/121402.html> の該当記事が出る。
- 74 Matsudaira Fumai | [松平不昧] コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/松平不昧> ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/松平治郷>。伝記：『松平不昧伝』/[松平家編集部] 慶文堂書店, 1918 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/953154/2?tocOpened=1>
- 75 Kokon Meibutsu Ruiju | 『古今名物類聚』/[陶斎尚古老人] 述 (国会デジコレ2563677 全9巻 目次：<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2607844?tocOpened=1> [松平不昧]が[陶斎尚古老人]名の著書。
- 76 Ii Naosuke | [井伊直弼] コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/井伊直弼> ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/井伊直弼>。
- 77 Chato Ichieshu | 『茶湯一會集：全』/[井伊直弼] 著；[井伊文子] 編述 井伊家史料保存会 1975.3 所在情報：<https://ci.nii.ac.jp/ncid/BA41532128>
- 78 Dokushi Biyo | 『説史備要』/[東京帝国大学文学部史料編纂所] 編 (国会デジコレ1915733 コマ554) <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1915733/554>
- 79 Shingei (Geiami) | [芸阿弥] コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/芸阿弥> ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/芸阿弥>。「類苑」「遊戯部七>茶湯一」  
<http://base.1.nijl.ac.jp/~kojiruien/> 「真芸検索」
- 80 Shinso (Soami) | [相阿弥] (-1525) [中尾, 真相, -1525] [松雪斎], [鑑岳]。[足利義政]の【同朋衆】。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/相阿弥> ウィキペディア解説：

- <https://ja.wikipedia.org/wiki/相阿弥>。「類苑」〔遊戯部七>茶湯一〕
- <http://base.1.nijl.ac.jp/~kojiruiein/>「真相検索」【床飾り】・【唐絵】鑑定書に『君台観左右帳記』有隣堂, 1884. (書影◎「国会デジコレ849483」<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849483>)がある(伝承の祖父の撰でない(解題:『典籍説稿』/〔山田孝雄〕著「国会デジコレ1902258」コマ171  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1902258>))。『君台観左右帳記』を詳細にしたものに『御飾記』(大永三年(1523)撰、万治三年(1660)出版)がある。(国会デジコレ2539231 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2539231>)
- 81 Tsuda Sotsu | 〔津田, 宗達, 1504-66〕<sup>{堺}</sup>の【豪商】〔天王寺屋〕〔宗伯〕の子。【茶人】。コトバンク解説; <https://kotobank.jp/word/津田宗達> ウィキペディア解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/津田宗達> 茶書に子の〔津田宗及〕、〔津田宗凡〕、〔江月宗玩〕の茶会記『天王寺屋会記』がある(『茶道古典全集, 第8巻』/〔千宗室〕等編, 淡交新社, 1959所収) 書影□「国会デジコレ2466384  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2466384>
- 82 Tsuda Sogyu | 〔津田, 宗及, -1519〕<sup>{堺}</sup>の【豪商】【茶人】。〔津田宗達〕の子。コトバンク解説; <https://kotobank.jp/word/津田宗久> ウィキペディア解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/津田宗久> 茶書に『津田宗及茶湯日記』がある(「国会デジコレ1114532」<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1114532>)。「類苑」遊戯部>茶湯編三>流派に「津田宗吸」で出現:  
[http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruiein/html/yugi\\_1/yugi\\_1\\_0597.html](http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruiein/html/yugi_1/yugi_1_0597.html)
- 83 Kamiya Sotan | 〔神谷, 宗湛, 1553-1635〕<sup>{博多}</sup>活躍の【豪商】【茶人】。コトバンク解説; <https://kotobank.jp/word/神谷宗湛> ウィキペディア解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/神谷宗湛> 茶書に『宗湛日記』がある(前編 書影□「国会デジコレ1185506」  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1185506> 後編: 書影□ 1183926  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1183926>)。「類苑」遊戯部>茶湯編>茶室に「神谷宗湛筆記」で出現: [http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruiein/html/yugi\\_1/yugi\\_1\\_0597.html](http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruiein/html/yugi_1/yugi_1_0597.html)
- 84 Imai Sokyū | 〔今井, 宗久, 1520-1593〕<sup>{堺}</sup>の【豪商】。茶書に『今井宗久茶湯日記抜書』がある。『今井宗久茶湯書抜: 静嘉堂文庫蔵本』/〔今井, 宗久〕著: 〔竹浪菴, 休叟〕編, 一渡辺書店, 1974. 所蔵: <https://ci.nii.ac.jp/ncid/BN12635107>
- 85 Furuta Oribe | 〔古田, 織部, 1543-1615〕<sup>{美濃}</sup>出身の武将で、〔織田信長〕、〔豊臣秀吉〕に仕え、〔千利休〕の高弟。「織部焼」、茶流〔織部流〕の祖。茶書に『古田織部伝書』がある(書影□ 国会デジコレ2466894 コマ138 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2466894> 同1230999  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1230999>等がある)。
- 86 Hosokawa Sansai (Hosokawa Tadaoki) | 〔細川, 忠興, 1563-1646〕豊前小倉藩主・肥後細川家初代。コトバンク解説; <https://kotobank.jp/word/細川三斎> ウィキペディア解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/細川忠興> 茶書に『細川三斎茶書』(解題:『茶道大鑑』所収 書影□ 国会デジコレ1190580 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1190580> コマ25所収)「類苑」遊戯部九>茶湯三に書影 [http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruiein/html/yugi\\_1/yugi\\_1\\_0597.html](http://shinku.nichibun.ac.jp/kojiruiein/html/yugi_1/yugi_1_0597.html)
- 87 Yamanoueno Soji | 〔山上, 宗二, 1544-90〕<sup>{堺}</sup>の【豪商】。〔千利休〕高弟で、〔豊臣秀吉〕の元【茶頭】。コトバンク解説: <https://kotobank.jp/word/山上宗二> ウィキペディア解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/山上宗二> 茶書に『山上宗二記』がある(『宗二之記』写本。書影◎ 国会デジコレ2538367 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2538367>
- 88 Rikyu Shichitetsu | 【利休七哲】。コトバンク解説: <https://kotobank.jp/word/利休七哲-1606272>
- 89 Yamada Sohen | 〔山田宗徧〕〔三河小笠原家〕の茶頭。

- コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/山田宗偏> 茶書に『茶道便蒙抄』（1巻～5巻：全号纏めサイト：国会デジコレ 2610926書影◎）  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2610926> がある。
- 90 Kawakami Fuhaku | [川上不白] [表千家] 七世 [如心斎宗左] の弟子。江戸に下り [江戸千家] を興す。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/川上不白>
- 91 Kenchu Jochi (Yabunouchi Jochi) | [藪内, 紹智, 1536-1627]。[藪内宗把] の養子。[武野紹鷗] の高弟で、[藪内流] の祖。コトバンク解説：[https://kotobank.jp/word/藪内紹智\(初代\)](https://kotobank.jp/word/藪内紹智(初代)) 以降の歴史は公式サイト【藪内家の茶】<http://www.yabunouchi-ennan.or.jp/> を参照されたい。
- 92 Kobori Masakazu (Kobori Enshu) | [小堀遠州, 1579-1647]。[近江] [小室藩] 初代藩主。[駿府城] [仙洞御所] 等を造営。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/小堀遠州> ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/小堀政一> 『小堀遠州茶会記集成』/[小堀宗慶] 著。主婦の友社, 1996 書誌のみ <https://ci.nii.ac.jp/ncid/BN14932136>
- 93 Shokado Shojo (Takahonbo Shojo) | [松花堂昭乗, 1582-1639]。[石清水八幡宮] 社僧。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/松花堂昭乗> 茶書に『松花堂茶会記』（『茶道全集 巻の5』創元社, 1936 所収）がある。国会デジコレ 1231083 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1231083>
- 94 Kanamori Sowa | [金森, 宗和, 1584-1656]。[飛騨] [高山城] 主 [金森可重] の子。茶道 [宗和流] 祖。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/金森宗和> ウィキペディア解説：<https://ja.wikipedia.org/wiki/金森宗和> 茶書に『金森宗和茶会記』がある（『金森宗和茶書』/[谷, 晃] 編。思文閣, 1997. 書誌：<https://ci.nii.ac.jp/ncid/BA32222050>）。
- 95 Nanbo Sokei [南坊宗啓]。[臨濟宗] [南宗寺集雲庵] の住職。[千利休] 高弟。著書『南方録』（現在では偽書説が通説）。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/南坊宗啓>
- 96 Katagiri Sadamasa (Katagiri Sekishu) | [片桐石州]。[大和小泉] 城主。[桑山宗仙] に茶を師事。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/片桐石州>
- 97 Bunrui Sojinboku | 『分類草人木』（『茶道全集 巻十二』創元社, 1937. 国会デジコレ1231237 所収 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1231237>）同書には「草人木」や、[桑田忠親]「初期茶道史文献資料解説」等もある。
- 98 Tanaka Sensho | [田中, 仙樵, 1875-1960] [千宗室] 弟子。コトバンク解説：<https://kotobank.jp/word/田中仙樵>
- 99 Chazen Ichimi | 『茶禪一味』光融館, 1905 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/823364>
- 100 Okakura Tenshin | [岡倉, 天心, 1863-1913] 本名 [覚三]。美術行政家。[茨城県天心記念五浦美術館] の解説：<http://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/okakura/>
- 101 Cha no Hon | 『茶の本』/[岡倉, 覚三] 著；[村岡, 博] 訳。—岩波書店, 1965 書影◎ 国会デジコレ 1125987 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1125987>